

## 知的障がい（なかよし）学級 国語科学習指導案

児童 4年男子1名    4年女子1名  
       5年男子2名    6年女子1名    計5名  
 指導者 T1   
       T2

1 単元名        音読をしよう 「お手紙」        (光村図書2年下)

### 2 学級の児童について

本学級では5名の児童が生活している。学年や発達段階に差がある事から多少のトラブルはあるが、どの子も自分のペースでゆったりとした生活ができる学級である。子どもたちは、日常生活のいろいろな場面で、お互いに刺激し合いながら仲良く活動している。

また、「あおぞら学級」との合同体育や合同音楽、生活単元学習などの時間を通じての交流、各学年との朝読書や運動会での交流、理科、音楽、図工、体育、家庭、総合的な学習の時間等で交流を行い、たくさんの友だちや先生方とのかかわりをもっている。

### 3 単元について

#### (1) 目標

場面の様子やがまくん、かえるくんの気持ちについて想像しながら読む。

#### (2) 指導にあたって

国語については、昨年度から短い詩の音読に毎日取り組んできている。休日や夏休み等も家庭の協力を得ながら取り組み、どの子も音読を楽しみにしたり、自信をもって読んだりするようになってきている。また、あおぞら学級の児童を対象に音読発表会を行ってきた。これまでに「たぬきの糸車」「三年とうげ」「白いぼうし」を紙芝居形式で発表している。音読発表会は読むことを楽しむだけでなく、相手意識をもって読めること、相手の感想を聞き達成感を得られることなど、児童にとって意欲をもって取り組める学習である。また、5人で分担したり、お互いの音読を聞きあったりすることで協力することやお互いのがんばりや良さを見つける機会も作れると考える。

これまでは場面を分担しての音読発表会であったが、今回は役を分担しての音読劇に取り組みせたいと考えた。これは、音読劇の取り組みをすることにより全員で場面の様子や登場人物の気持ちなどの内容を理解する学習が展開できると考えたためである。今回取り上げる「お手紙」は2年生の教材である。全員が知っている教材であること、登場人物の会話が多いことからこの教材を選んだ。役割の分担、お面や背景の準備、読みの練習、発表会とじっくりと取り組みせたい。第1次の読みの練習では読み仮名をつけ、漢字練習をするなど児童の実態に合わせた個別学習の時間を取り個人の力を伸ばしたいと考える。第2次の音読劇の発表練習では場面の様子を考えさせたり、がまくん、かえるくんの気持ちがよく表れるように音読を工夫させたり、動作化させたりする中で内容を理解させたいと考える。

#### (3) 指導計画（12時間）

- |     |                          |              |
|-----|--------------------------|--------------|
| 第1次 | 学習の見通しを持ち、音読練習をしよう       | (4時間)        |
| 第2次 | 登場人物の気持ちになって音読劇の発表練習をしよう | (6時間) 本時は1/6 |
| 第3次 | 友人や先生方に褒めてもらえるような発表会をしよう | (2時間)        |

### 4 本時の指導

#### (1) 目標

児童	実態	本時の目標	仮説にかかわる手だて ○書く活動 (視点1) ●話す・聞く活動 (視点2)
A 4 年 男 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての文章もスラスラ読むことができる。</li> <li>・読書が好きで内容の理解もはやい。</li> <li>・15分程度の集中力がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の気持ちになって音読することができる。</li> <li>・登場人物の気持ちを考えることができる。</li> <li>・みんなと同じペースで学習に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登場人物の気持ちを表すためにはどのような表現がよいか考えて音読記号を書くようにする。</li> <li>●動作化することでかえるくんの気持ちの変化に気付けるようにする。</li> <li>●友だちの考えと自分の考えをくらべることでみんなと同じペースをつかめるようにする。</li> </ul>

B 4 年 女 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読を好む。</li> <li>登場人物やおおよそのあらすじをつかむことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の気持ちになって音読することができる。</li> <li>登場人物の気持ちを考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●台詞の上の表情マークを意識することで音読表現につなげるようにする。</li> <li>○挿絵の登場人物の表情に注目し、気持ちをとらえてから大切な言葉をさがしたり、サイドラインを引いたりできるようにする。</li> </ul>
C 5 年 男 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読を好む。語句の区切りが分からないことが多い。</li> <li>気持ちの理解や表現することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の気持ちになって音読することができる。</li> <li>登場人物がどんな顔で話しているか考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「かなしい」顔、「はげます」顔になることで音読表現につなげるようにする。</li> <li>○挿絵をもとに気持ちを表す顔を描くことで気持ちを考えることができるようにする。</li> </ul>
D 5 年 男 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読を好む。声が小さくなりがちである。</li> <li>登場人物やおおよそのあらすじをつかむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の気持ちになって音読することができる。</li> <li>登場人物の気持ちを考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読む前に役や気持ちを確認し自信がもてるよう声かけをする。</li> <li>○挿絵の登場人物の表情に注目し、気持ちをとらえてから大切な言葉をさがしたり、サイドラインを引いたりできるようにする。</li> </ul>
E 6 年 女 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>思い込みで読んでしまうことがある。</li> <li>登場人物やおおよそのあらすじをつかむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の気持ちになって音読することができる。</li> <li>動作からも気持ちを考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文を指で示すことで、正しく読むことを意識づける。</li> <li>○挿絵からがまくんが座っていることやかえるくんががまくんに寄り添っていることに気付き、ふたりの気持ちが想像できるようにする。</li> </ul>

(2) 展 開

	学習内容と活動	活動への支援（・）評価（◆）
つ か む 5	1 あいさつ 2 詩の音読 「声に出して」 ・全員で一斉に音読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前に立つ教師を見たり、日直の号令にあわせてあいさつをしたりするよう励ます。</li> <li>C, D, EをT1が、A, BをT2が聞き、がんばったこと、出来ようになったことをカードに記入し、ほめる。</li> <li>◆正しく、はっきり、大きな声で音読することができる。（発表）</li> </ul>
自 分 の 考 え を 持 つ ・ 学 び 合 う 25	3 課題の確認 がまくん、かえるくんの気持ちになって音読しよう。 4 登場人物の気持ちを考える。 ・会話文に着目させ、誰の文かを確認する。 ・がまくんとかえるくんの気持ちを考える。 ・がまくん、かえるくんの気持ちを考えて音読したり、動作化したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割分担、練習する場面を確認し見通すことで安心感を持つ。</li> <li>・T1（がまくん）、T2（かえるくん）にわかれて会話文の確認をする。</li> <li>◆誰の会話文が正しくシールを貼ることができる。（ワークシート）</li> <li>・T1, T2がいく通りかの読み方を示し、どの読み方が適しているのか、なぜその読み方が適しているのか考える手掛かりにする。</li> <li>・挿絵の表情、文中の言葉、動作から登場人物の気持ちを考える。</li> <li>・気持ちを表現するのに適した声の強弱、読む速さ、間の取り方などの音読表現を確かめる。</li> <li>・立ち位置や顔の向き手足の動きなどの動作からも気持ちを考える。</li> <li>・T1と児童、T2と児童、児童同士で音読する。</li> </ul>
ま と め る 15	5 まとめの読みをする。 6 学習の振り返り ・自分の学習を振り返らせ、お互いのがんばりを認め合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割分担に従い、気持ちや動作を確認してから発表することで安心して読めるようにする。</li> <li>・友だちの音読をきちんと聞くことも意識できるように声かけをする。</li> <li>◆登場人物の気持ちになって音読することができる。（発表）</li> <li>・今日自分のがんばりや友だちの良さを発表し、認め合う。</li> <li>・一人一人のがんばりを認めてほめる。</li> <li>◆自分のがんばりを発表したり、友だちのがんばりに拍手を送ったりすることができる。（発言）</li> </ul>